

2026年度 順天堂大学

【 講 評 】

例年通り、大問3題で出題された。大問1の小問集合は昨年の4題から3題と変更されたが、計算量や難易度を考慮するとほぼ変化なしと言える。また、大問3が記述式で証明を含む問題である点も変更がなかった。昨年同様、全体的に誘導が親切な問題が多く、解きやすい問題が多かった。正規合格のためには70%以上の得点を目指したい。以下、大問ごとに特徴を述べる。

I 小問集合

(1) 指数関数（指数方程式）／対数関数（対数方程式）／三角関数（三角不等式）【やや易】

典型的な方程式、不等式を解く問題であった。ここは完答したい。

(2) 場合の数・確率（反復試行の確率）【標準】

さいころを投げて、出た目の数と同じ枚数のコインを投げる問題であった。解き方によっては計算がやや面倒な設問もあるが、難しいわけではないので完答したい問題である。

(3) 集合と命題（必要・十分条件）【標準】

昨年に引き続き、必要十分条件を判定する問題であった。過去問で対策できていた人も多かっただろう。真偽の判定に悩むものは飛ばして、3題または4題は正解したい。

II いろいろな曲線（2次曲線、複素数平面）【標準】

楕円の平行移動、回転移動に関する問題であった。例年の第2問同様丁寧な誘導があるので、それにしたがっていくだけであるが、手順がわかっていないとやや計算が煩雑になる。出来が良くなかった人は、今後の試験に向けて見直しをしておいてもらいたい（本年の杏林大でも出題されていたテーマである）。

III 数列（数学的帰納法）／数Ⅲ微分法（導関数の定義、不等式への応用）【標準】

(1)は導関数の定義、(2)は微分法を用いた不等式証明で、いずれも教科書レベルである。(3)は数学的帰納法と微分法を用いた不等式証明となるが、類題を解いた経験の有無で差がつくだろう（慧修会では後期のテキストで扱っている）。(4)は(3)の不等式を用いるだけである。(1)、(2)を完答し、(3)が解けなくても(4)を解いておきたい。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>

【 解 答 】

Ⅰ (1)(a) アイ： $\frac{9}{2}$, (b) ウエ： $\frac{1}{4}$, オ：2, (c) カ：0, キク： $\frac{1}{6}$, ケコ： $\frac{1}{4}$, サシ： $\frac{3}{4}$

(2)(a) アイウエオ： $\frac{21}{128}$, カキク： $\frac{5}{16}$, ケコサシスセソ： $\frac{105}{1024}$,

(3)(a) ア：(A), (b) イ：(C), (c) ウ：(A), (d) エ：(C), (e) オ：(B)

Ⅱ (1) ア：2, イ：8, ウ：4,

(2) エ：(C), オ：(A), カ：(C), キ：(B), ク：(A), ケ：(C),

(2) コサ：15, シ：2, ス：1, セ：5, ソ：3, タチ： $2\sqrt{2}$, ツテト： $\frac{\sqrt{15}}{3}$, ナ：2, ニ：1,

ヌネノハ： $2\sqrt{3} \pm \sqrt{15}$

Ⅲ 解説参照

お問い合わせは☎0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>

【 解 説 】

I

(1)(a) 方程式を変形すると

$$\frac{1}{4} \cdot 2^x - 4 \cdot \frac{1}{2^x} = \frac{31\sqrt{2}}{8}$$

$$2(2^x)^2 - 32 = 31\sqrt{2} \cdot 2^x$$

$$2(2^x)^2 - 31\sqrt{2} \cdot 2^x - 32 = 0$$

$$(\sqrt{2} \cdot 2^x + 1)(\sqrt{2} \cdot 2^x - 32) = 0$$

$\sqrt{2} \cdot 2^x + 1 > 0$ であるから $\sqrt{2} \cdot 2^x - 32 = 0$

$$2^x = \frac{32}{\sqrt{2}} = 2^{\frac{9}{2}} \quad \therefore x = \frac{9}{2}$$

(b) 底の条件により $x > 0, x \neq 1$

両辺正であるから, 2 を底とする対数をとると

$$(3 + \log_2 x) \log_2 x = \log_x 4 \log_2 4$$

$$3 \log_2 x + (\log_2 x)^2 = \frac{2}{\log_2 x} \cdot 2$$

$$(\log_2 x)^3 + 3(\log_2 x)^2 - 4 = 0$$

$$(\log_2 x - 1)((\log_2 x)^2 + 4 \log_2 x + 4) = 0$$

$$(\log_2 x - 1)(\log_2 x + 2)^2 = 0 \quad \therefore \log_2 x = 1, -2$$

よって, $x = 2, \frac{1}{4}$

これらは $x > 0, x \neq 1$ を満たす.

(c) 2 倍角の公式により

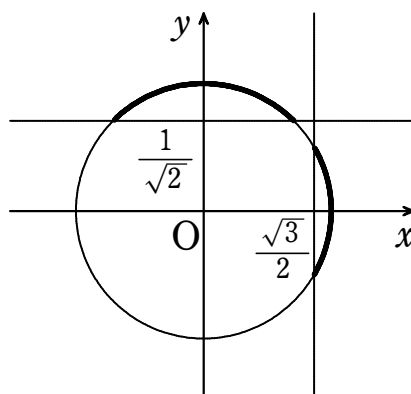
$$4 \sin x \cos x - 2\sqrt{3} \sin x - 2\sqrt{2} \cos x + \sqrt{6} \leq 0$$

$$(2 \sin x - \sqrt{2})(2 \cos x - \sqrt{3}) \leq 0$$

$$\therefore \begin{cases} \sin x \geq \frac{1}{\sqrt{2}} \\ \cos x \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} \sin x \leq \frac{1}{\sqrt{2}} \\ \cos x \geq \frac{\sqrt{3}}{2} \end{cases}$$

$0 \leq x \leq \pi$ であるから, 右の図より

$$0 \leq x \leq \frac{\pi}{6}, \quad \frac{\pi}{4} \leq x \leq \frac{3}{4}\pi$$



(2)(a) 1 個のさいころを投げて $k (k=1, 2, 3, 4, 5, 6)$ の目が出て, k 枚のコインを投げて表が出ない確率は

$$\frac{1}{6} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^k$$

よって, 求める確率は $\sum_{k=1}^6 \frac{1}{6} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^k = \frac{1}{12} \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^6}{1 - \frac{1}{2}} = \frac{1}{6} \left(1 - \frac{1}{64}\right) = \frac{21}{128}$

(b) 1個のさいころを投げて k ($k=1, 2, 3, 4, 5, 6$) の目が出て, k 枚のコインを投げて 1 枚だけ表が出る確率は

$$\frac{1}{6} \times {}_k C_1 \cdot \left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = \frac{k}{6} \left(\frac{1}{2}\right)^k$$

よって, 求める確率は

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^6 \frac{k}{6} \left(\frac{1}{2}\right)^k &= \frac{1}{6} \sum_{k=1}^6 k \left(\frac{1}{2}\right)^k \\ &= \frac{1}{6} \left\{ 1 \cdot \left(\frac{1}{2}\right) + 2 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^2 + 3 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^3 + 4 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 + 5 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^5 + 6 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^6 \right\} \\ &= \frac{1}{6} \cdot \frac{32 + 32 + 24 + 16 + 10 + 6}{2^6} \\ &= \frac{120}{6 \cdot 2^6} = \frac{5}{16} \end{aligned}$$

(c) 1 回目にさいころを投げて出た目と同じ枚数のコインを投げ, 2 回目にさいころを投げて出た目と同じ枚数のコインを投げるとき, 投げたコインのうち 1 枚だけ表が出るのは, 1 回目の試行で表が出る場合と, 2 回目の試行で表が出る場合があるから, (a), (b) より

$$2 \times \frac{21}{128} \times \frac{5}{16} = \frac{105}{1024}$$

別解 (a), (b) の Σ 計算は, 次のように行ってもよい.

$|x| < 1$ のとき,

$$f(x) = \sum_{k=1}^6 x^k = \frac{x(1-x^6)}{1-x} \quad \dots\dots ①$$

とおくと, (a) の確率は

$$\sum_{k=1}^6 \frac{1}{6} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^k = \frac{1}{6} f\left(\frac{1}{2}\right)$$

また, $f'(x) = \sum_{k=1}^6 kx^{k-1}$ であるから (b) の確率は

$$\sum_{k=1}^6 \frac{k}{6} \left(\frac{1}{2}\right)^k = \frac{1}{12} \sum_{k=1}^6 k \left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = \frac{1}{12} f'\left(\frac{1}{2}\right)$$

ここで ① より

$$f\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{\frac{1}{2} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{2}\right)^6 \right\}}{1 - \frac{1}{2}} = 1 - \frac{1}{64} = \frac{63}{64}$$

また, ① より $(1-x)f(x) = x(1-x^6) = x - x^7$

両辺を x で微分すると $-f(x) + (1-x)f'(x) = 1 - 7x^6$

$x = \frac{1}{2}$ を代入すると $-f\left(\frac{1}{2}\right) + \frac{1}{2} f'\left(\frac{1}{2}\right) = 1 - 7 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^6$

$$-\frac{63}{64} + \frac{1}{2} f'\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{57}{64} \quad \therefore f'\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{15}{4}$$

したがって,

$$(a) \text{ の確率は } \frac{1}{6} f\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{6} \cdot \frac{63}{64} = \frac{21}{128}$$

$$(b) \text{ の確率は } \frac{1}{12} f'\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{12} \cdot \frac{15}{4} = \frac{5}{16}$$

別解 (c) はすべての場合を書き出すと、次のようになる。

さいころを 2 回投げたときの目の和は、次の表のようになる。

	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

さいころを 2 回投げたときの目の和が l ($l=2, 3, \dots, 12$) であり、 l 枚のコインを投げて 1 枚だけ表が出る確率は

$${}_l C_1 \left(\frac{1}{2}\right) \left(\frac{1}{2}\right)^{l-1} = {}_l C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^l$$

したがって、求める確率は

$$\begin{aligned} & \frac{1}{6^2} \left\{ 1 \times {}_2 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^2 + 2 \times {}_3 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^3 + 3 \times {}_4 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^4 + 4 \times {}_5 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^5 + 5 \times {}_6 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^6 + 6 \times {}_7 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^7 \right. \\ & \quad \left. + 5 \times {}_8 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^8 + 4 \times {}_9 C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^9 + 3 \times {}_{10} C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^{10} + 2 \times {}_{11} C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^{11} + 1 \times {}_{12} C_1 \left(\frac{1}{2}\right)^{12} \right\} \\ &= \frac{1}{36} \cdot \frac{2048 + 3072 + 3072 + 2560 + 1920 + 1344 + 640 + 288 + 120 + 44 + 12}{2^{12}} \\ &= \frac{15120}{36 \cdot 2^{12}} = \frac{105}{1024} \end{aligned}$$

(3)(a) 連続関数 $f(x)$ について,

P: すべての実数 a, b に対して $\int_a^b f(x) dx = \frac{b^3 - a^3}{3}$ となる.

Q: $f(x) = x^2$ である.

とする.

$P \Rightarrow Q$ は真である.

(証明) $\int_a^b f(x) dx = \frac{b^3 - a^3}{3}$ の両辺を b で微分すると $f(b) = \frac{3b^2}{3} = b^2 \quad \therefore f(x) = x^2$

$Q \Rightarrow P$ は真である.

(証明) $f(x) = x^2$ のとき $\int_a^b f(x) dx = \int_a^b x^2 dx = \left[\frac{1}{3} x^3 \right]_a^b = \frac{b^3 - a^3}{3}$

よって, PはQであるための必要十分条件である. (A)

(b) 異なる2つの正の整数 a, b について,

P: $\sqrt{a} + \sqrt{b}$ が無理数である.

Q: \sqrt{ab} が無理数である.

とする.

$P \Rightarrow Q$ は偽である.

(反例) $a = b = 2$ とすると, $\sqrt{2} + \sqrt{2} = 2\sqrt{2}$ は無理数であるが, $\sqrt{ab} = \sqrt{4} = 2$ は有理数である.

$Q \Rightarrow P$ は真である.

(証明) 対偶命題 $\overline{P} \Rightarrow \overline{Q}$ を示す.

$\sqrt{a} + \sqrt{b}$ が有理数であるとき, p を有理数とすると

$$\sqrt{a} + \sqrt{b} = p$$

と表せる. 両辺を2乗すると

$$a + b + 2\sqrt{ab} = p^2 \quad \therefore \sqrt{ab} = \frac{p^2 - (a + b)}{2}$$

a, b は自然数, p は有理数であるから, \sqrt{ab} は有理数である.

よって, PはQであるための, 十分条件であるが必要条件でない. (C)

(c) 2次以上の多項式 $P(x)$ について

P: 異なる実数 α, β に対して $P(\alpha) = P(\beta) = 0$ となる.

Q: $P(x)$ が $(x - \alpha)(x - \beta)$ で割り切れる.

$P \Rightarrow Q$ は真, $Q \Rightarrow P$ も真である.

(証明) 2次以上の多項式 $P(x)$ を $(x - \alpha)(x - \beta)$ で割ったときの商を $Q(x)$ とする.

$$P(x) \text{ が } (x - \alpha)(x - \beta) \text{ で割り切れる} \Leftrightarrow P(x) = (x - \alpha)(x - \beta)Q(x) \Leftrightarrow P(\alpha) = P(\beta) = 0$$

よって, PはQであるための必要十分条件である. (A)

(d) 複素数平面上の異なる3点 $O(0)$, $A(\alpha)$, $B(\beta)$ について,

P: $\alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2 = 0$ が成り立つ.

Q: $\triangle OAB$ は二等辺三角形になる.

$P \Rightarrow Q$ は真である.

(証明) 両辺に $\alpha - \beta \neq 0$ をかけると $(\alpha - \beta)(\alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2) = 0$

$$\alpha^3 - \beta^3 = 0 \quad \therefore \quad \alpha^3 = \beta^3$$

$$\text{両辺の絶対値を考えると } |\alpha^3| = |\beta^3| \Leftrightarrow |\alpha|^3 = |\beta|^3 \Leftrightarrow |\alpha| = |\beta|$$

よって, $\triangle OAB$ は二等辺三角形である.

$Q \Rightarrow P$ は偽である.

(反例) $\alpha = 1$, $\beta = i$ のとき, $|\alpha| = |\beta| = 1$, すなわち $\triangle OAB$ は二等辺三角形になるが,

$$\alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2 = 1^2 + 1 \cdot i + i^2 = i \neq 0$$

よって, PはQであるための十分条件であるが, 必要条件でない. (C)

(e) 平面上の2点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$ について, $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ で \vec{a} と \vec{b} は平行でないとする.

点Cの位置ベクトルが $\vec{c} = s\vec{a} + t\vec{b}$ (s, t は定数) で与えられるとき,

P: $s + t = 1$ である.

Q: 点Cが線分ABの内分点

とする.

$P \Rightarrow Q$ は偽

(反例) $s = 2$, $t = -1$ のとき $s + t = 1$ であるが, $\vec{c} = 2\vec{a} - \vec{b}$ は線分ABを2:1に外分する点を表す.

$Q \Rightarrow P$ は真

(証明) 点Cが線分ABの内分点であるとき, $0 < k < 1$ を満たすある実数 k が存在し,

$$\vec{c} = \vec{a} + k\overrightarrow{AB} = \vec{a} + k(\vec{b} - \vec{a}) = (1 - k)\vec{a} + k\vec{b}$$

$$\vec{a}, \vec{b} \text{ は1次独立であるから } \begin{cases} 1 - k = s \\ k = t \\ 0 < k < 1 \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} s + t = 1 \\ s > 0 \\ t > 0 \end{cases}$$

よって, PはQであるための必要条件であるが, 十分条件でない. (B)

II

(1) 楕円 $x^2 + 2y^2 = 4$ を x 軸方向に 1, y 軸方向に -2 だけ平行移動した楕円の方程式は

$$(x-1)^2 + 2(y+2)^2 = 4$$

$$\therefore x^2 + 2y^2 - 2x + 8y + 4 = 0$$

(2) 座標平面上の点 (x, y) を原点中心に θ 回転して得られる点の座標を (X, Y) とすると,

$$X + Yi = (\cos \theta + i \sin \theta)(x + yi) \quad \therefore \alpha = \cos \theta \text{ (C)}, \beta = \sin \theta \text{ (A)}$$

右辺を計算すると

$$X + Yi = (x \cos \theta - y \sin \theta) + (x \sin \theta + y \cos \theta)i$$

$$\therefore x = x \cos \theta + y(-\sin \theta), \quad y = x \sin \theta + y \cos \theta$$

よって $a = \cos \theta$ (C), $b = -\sin \theta$ (B), $c = \sin \theta$ (A), $d = \cos \theta$ (C)

(3) 曲線 C_1 は原点に関して対称な曲線 $C_2: 3x^2 + 4\sqrt{3}xy - y^2 = k^2$ を x 軸方向に a , y 軸方向に b だけ平行移動したものであるとすると,

$$3(x-a)^2 + 4\sqrt{3}(x-a)(y-b) - (y-b)^2 = k^2$$

$$\therefore 3x^2 + 4\sqrt{3}xy - y^2 - (6a + 4\sqrt{3}b)x + (2b - 4\sqrt{3}a)y + 3a^2 + 4\sqrt{3}ab - b^2 - k^2 = 0$$

C_1 の方程式と各項の係数を比較すると

$$\begin{cases} 6a + 4\sqrt{3}b = 12 + 4\sqrt{3} & \dots\dots ② \end{cases}$$

$$\begin{cases} 2b - 4\sqrt{3}a = 2 - 8\sqrt{3} & \dots\dots ③ \end{cases}$$

$$\begin{cases} 3a^2 + 4\sqrt{3}ab - b^2 - k^2 = -4 + 8\sqrt{3} & \dots\dots ④ \end{cases}$$

②, ③ を解くと $a = 2, b = 1$

これを④に代入すると, $k^2 = 15$

よって, 曲線 C_1 は曲線 $C_2: 3x^2 + 4\sqrt{3}xy - y^2 = 15$ を x 軸方向に 2, y 軸方向に 1 だけ平行移動した曲線である.

また, 曲線 C_3 は曲線 C_2 を原点の周りに $-\frac{\pi}{6}$ 回転した曲線であるから, C_2 上の点を (x, y) , C_3 上の点を (X, Y)

として (1) の①で $\theta = -\frac{\pi}{6}$ とすると,

$$X + Yi = \left\{ \cos\left(-\frac{\pi}{6}\right) + i \sin\left(-\frac{\pi}{6}\right) \right\} (x + yi)$$

$$\begin{aligned} x + yi &= (X + Yi) \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) = \frac{1}{2} (X + Yi) (\sqrt{3} + i) \\ &= \frac{1}{2} \{ (\sqrt{3}X - Y) + (X + \sqrt{3}Y)i \} \end{aligned}$$

$$\therefore x = \frac{1}{2}(\sqrt{3}X - Y), \quad y = \frac{1}{2}(X + \sqrt{3}Y)$$

C_2 の方程式に代入すると

$$\frac{3}{4}(\sqrt{3}X - Y)^2 + 4\sqrt{3} \cdot \frac{1}{4}(\sqrt{3}X - Y)(X + \sqrt{3}Y) - \frac{1}{4}(X + \sqrt{3}Y)^2 = 15$$

$$\frac{3}{4}(3X^2 - 2\sqrt{3}XY + Y^2) + \sqrt{3}(\sqrt{3}X^2 + 2XY - \sqrt{3}Y^2) - \frac{1}{4}(X^2 + 2\sqrt{3}XY + 3Y^2) = 15$$

$$\therefore 5X^2 - 3Y^2 = 15$$

よって, 曲線 C_3 の方程式は $5x^2 - 3y^2 = 15$

$\frac{x^2}{3} - \frac{y^2}{5} = 1$ であるから、曲線 C_3 は焦点 $(\pm 2\sqrt{2}, 0)$ 、漸近線 $y = \pm \sqrt{\frac{5}{3}}x = \pm \frac{\sqrt{15}}{3}x$ をもつ双曲線である。

また、 C_3 、 C_2 の中心は原点であり、 C_1 は C_2 を x 軸方向に 2、 y 軸方向に 1 だけ平行移動した曲線であるから、 C_1 の中心は $(2, 1)$ である。

さらに、 C_2 は C_3 を原点の周りに $\frac{\pi}{6}$ 回転させた曲線であり、 C_1 は C_2 を平行移動させた曲線であるから、

$\tan \theta = \pm \frac{\sqrt{15}}{3}$ とすると、 C_3 の漸近線の傾きは複号同順として

$$\begin{aligned} \tan\left(\theta + \frac{\pi}{6}\right) &= \frac{\tan \theta + \tan \frac{\pi}{6}}{1 - \tan \theta \tan \frac{\pi}{6}} = \frac{\pm \frac{\sqrt{15}}{3} + \frac{1}{\sqrt{3}}}{1 - \left(\pm \frac{\sqrt{15}}{3}\right) \cdot \frac{1}{\sqrt{3}}} \\ &= \frac{\pm 3\sqrt{5} + 3}{3\sqrt{3} \mp \sqrt{15}} = \frac{3(\pm\sqrt{5} + 1)}{\sqrt{3}(3 \mp \sqrt{5})} \\ &= \sqrt{3} \cdot \frac{(\pm\sqrt{5} + 1)(3 \pm \sqrt{5})}{9 - 5} = \sqrt{3} \cdot \frac{8 \pm 4\sqrt{5}}{4} \\ &= 2\sqrt{3} \pm \sqrt{15} \end{aligned}$$

III

$$\begin{aligned}
 (1) \quad (\sin x)' &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\sin(x+h) - \sin x}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{2\cos\left(x + \frac{h}{2}\right) \sin \frac{h}{2}}{h} \\
 &= \lim_{h \rightarrow 0} \cos\left(x + \frac{h}{2}\right) \cdot \frac{\sin \frac{h}{2}}{\frac{h}{2}} \\
 &= \cos x \quad (\text{証明終})
 \end{aligned}$$

(2) $x \geq 0$ において, $f(x) = x - \sin x \geq 0$ の成立を示す.

$$f'(x) = 1 - \cos x \geq 0$$

$x \geq 0$ で $f(x)$ は単調に増加し, $f(0) = 0$

よって $f(x) \geq 0$ (等号成立は $x = 0$) (証明終)

(3) $F_n(x) \geq 0$, $G_n(x) \geq 0$ が成り立つことを, 数学的帰納法で証明する.

(I) $n = 1$ のとき,

$$F_1(x) = (-1)^0 \{S_1(x) - \sin x\} = \sum_{k=1}^1 (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-1}}{(2k-1)!} - \sin x = (-1)^0 \frac{x^1}{1!} - \sin x = x - \sin x \geq 0 \quad (\because (2)),$$

$$G_1(x) = (-1)^0 \{T_1(x) - \cos x\} = \sum_{k=1}^1 (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-2}}{(2k-2)!} - \cos x = (-1)^0 \frac{x^0}{0!} - \cos x = 1 - \cos x \geq 0$$

より成り立つ.

(II) $n = m$ のとき

$x \geq 0$ において $F_m(x) \geq 0$, $G_m(x) \geq 0$ が成り立つと仮定すると, $n = m + 1$ のとき,

$$F_{m+1}(x) = (-1)^m \{S_{m+1}(x) - \sin x\} = (-1)^m \left\{ \sum_{k=1}^{m+1} (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-1}}{(2k-1)!} - \sin x \right\},$$

$$G_{m+1}(x) = (-1)^m \{T_{m+1}(x) - \cos x\} = (-1)^m \left\{ \sum_{k=1}^{m+1} (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-2}}{(2k-2)!} - \cos x \right\}$$

であり,

$$F'_{m+1}(x) = (-1)^m \left\{ \sum_{k=1}^{m+1} (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-2}}{(2k-2)!} - \cos x \right\} = G_{m+1}(x) \quad \dots\dots ①,$$

$$\begin{aligned}
 G'_{m+1}(x) &= (-1)^m \left\{ (-1)^0 \frac{x^0}{0!} + \sum_{k=2}^{m+1} (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-2}}{(2k-2)!} - \cos x \right\}' = (-1)^m \left\{ 0 + \sum_{k=2}^{m+1} (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-3}}{(2k-3)!} + \sin x \right\} \\
 &= (-1)^m \left\{ \sum_{k=1}^m (-1)^k \frac{x^{2k-1}}{(2k-1)!} + \sin x \right\} = (-1)^m \left\{ - \sum_{k=1}^m (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-1}}{(2k-1)!} + \sin x \right\} \\
 &= (-1)^{m-1} \left\{ \sum_{k=1}^m (-1)^{k-1} \frac{x^{2k-1}}{(2k-1)!} - \sin x \right\} = F_m(x) \geq 0
 \end{aligned}$$

よって, $x \geq 0$ で $G_{m+1}(x)$ は単調に増加し,

$$G_{m+1}(0) = (-1)^m \left\{ (-1)^0 \frac{1}{0!} - 1 \right\} = 0 \quad \therefore G_{m+1}(x) \geq 0$$

したがって ① から, $x \geq 0$ で $F'_{m+1}(x)$ は単調に増加し,

$$F_{m+1}(0) = (-1)^m \{0 - \sin 0\} = 0 \quad \therefore F_{m+1}(x) \geq 0$$

よって, $n = m + 1$ のときも成り立つ.

(I), (II) より, 数学的帰納法により $x \geq 0$ において $F_n(x) \geq 0$, $G_n(x) \geq 0$ が成り立つ. (証明終)

(4) (3) より,

$$F_2(1) \geq 0 \Leftrightarrow (-1)^1 \{S_2(1) - \sin 1\} \geq 0$$

$$\Leftrightarrow \sin 1 \geq S_2(1) = \sum_{k=1}^2 (-1)^{k-1} \frac{1^{2k-1}}{(2k-1)!} = 1 - \frac{1}{3!} = \frac{7}{6} = 0.83\ldots$$

$$\therefore \sin 1 > 0.83$$

が成立し,

$$F_3(1) \geq 0 \Leftrightarrow (-1)^2 \{S_3(1) - \sin 1\} \geq 0$$

$$\Leftrightarrow \sin 1 \leq S_3(1) = \sum_{k=1}^3 (-1)^{k-1} \frac{1^{2k-1}}{(2k-1)!} = 1 - \frac{1}{3!} + \frac{1}{5!} = \frac{120 - 20 + 1}{120} = \frac{101}{120} = 0.84\ldots$$

$$\therefore \sin 1 < 0.85$$

が成立する.

よって, $0.83 < \sin 1 < 0.85$ (証明終)

別解 (1) は加法定理を用いてもよい.

$$\begin{aligned} (\sin x)' &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\sin(x+h) - \sin x}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\sin x \cos h + \cos x \sin h - \sin x}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \left(\frac{\sin h}{h} \cos x - \frac{1 - \cos h}{h} \sin x \right) = \lim_{h \rightarrow 0} \left\{ \frac{\sin h}{h} \cos x - \frac{1 - \cos^2 h}{h(1 + \cos h)} \sin x \right\} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \left\{ \frac{\sin h}{h} \cos x - \frac{\sin h}{h} \cdot \frac{\sin h}{1 + \cos h} \sin x \right\} = 1 \cdot \cos x - 1 \cdot \frac{0}{1+1} \sin x \\ &= \cos x \quad (\text{証明終}) \end{aligned}$$